

愛知・岐阜の 自由民権運動と女優・貞奴

自由民権運動から150年……

豊かな緑に包まれた岐阜公園の山際に、板垣退助の銅像がひっそりと立っています。
「板垣死すとも自由は死せず」板垣が叫んだとされる伝説的な言葉だが、
そもそも土佐の人である板垣の銅像が、なぜ岐阜にあるのだろうか？なぜ彼はこの地で襲われたのか？
襲撃後、瀕死の板垣を救うべく、名古屋から岐阜までの40キロの道のりを人力車で向かったのが、
当時、愛知県医学校（現・名古屋大学医学部）の校長兼病院長だった後藤新平、後の東京市長となる人です。
この襲撃事件が発火点となり、全国各地で自由民権激化事件が次々と起こります。
また、明治政府の弾圧が激しさを増すなか、川上音二郎一座と日本初の女優・貞奴は、
自由民権運動に「オペケペー節」を引っ提げて登場し、またたく間に一世を風靡します。
この激動のさなか、新時代を切り開こうとした当時の若者たちを振り返り、
これからの、明るく平和な未来社会の実現を願ってお話したいと思います。

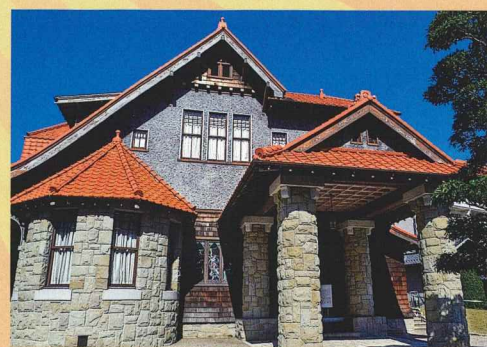


「板垣君遭難之圖」一陽斎豊宣画より



講師 津田正夫氏 元NHKプロデューサー

1943年金沢生まれ、'66年京大経済学部卒業。'66～'95年NHKで報道番組制作、'95～'02年東邦短大教授、'02～'13年立命館大教授。 言論・メディア民主主義で教鞭、岐阜市在住。主な著書に『ネット時代のパブリック・アクセス』（共編著、世界思想社）、『メディア・ルネッサンス』（共編著、風媒社）、『谷中村長 茂呂近助』（共編著、随想舎）、『ドキュメント「みなさまのNHK」公共放送の原点から』（単著、現代書館）、『百姓・町人・芸人の明治革命—自由民権運動150年』（単著、現代書館）ほか多数。「追伸」同人。



文化のみち二葉館（旧川上貞奴邸）
名古屋市東区檀木町

2025
令和7年10月26日⑧ 10時30分～12時
[開場10時]

名古屋市中区役所 地下2階ホール

● 公共交通機関でお越しください（地下鉄「栄」駅②番出入口より東50m）

お問い合わせ先 名古屋市中区役所地域力推進課

TEL 052-265-2225 FAX 052-261-0535 E-mail a2652224@naka.city.nagoya.lg.jp

入場
無料

募集人員：500名 事前予約不要

おからねこパネルシアター
+先着200名の方に
おからドーナツをプレゼント。